

銀座セカンドライフが毎月主催

シニア起業家交流で商談続々

飛躍カンパニー

7月13日、東京・銀座の貸しホール。午後6時近くになると、50代や60代の男性らが続々と入ってきた。中高年のシニア起業家が集う「銀座アントレ交流会」の参加者だ。この日は約80人が集まった。

50代の男性がやや緊張した面持ちでマイクの前に立つ。「デジタル関連のコンテンツ制作を手がけています。ホームページ制作などの要望があれば、ぜひ、声をかけてください」。ほかに、健康食品製造販売、環境コンサルティング、物流サービス、広告・宣伝企画など異業種の起業家が次々と2分間で事業を紹介していく。

続いて行われた自由交流では会場のあちこちで商談や情報交換が繰り広げられた。その場で商談が成立することもある。印刷

会社を運営する60代の男性は「数人から名刺のデザインと印刷の注文を受けた」と目尻を下げる。熱気に包まれた交流会は午後9時過ぎまで続いた。

「この交流会は3年前から始めました。今回が33回目で、いつも盛況です」。交流会を主催する銀座セカンドライフ（東京都中央区）の片桐実央社長が柔和な笑みを見せる。これまでに延べ約2500人のシニア起業家が交流会に参加した。事前に業種構成などを調整していることもあり、密度の高いビジネス交流ができると評判で、1人当たり3件程度の商談があるという。

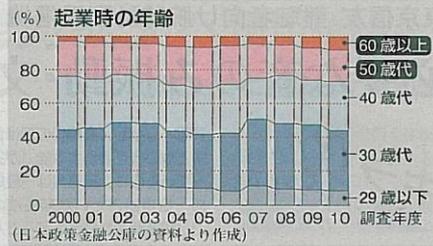
同社は、会社の設立準備から経営を軌道に乗せるまで、起業を一貫して支援する。毎月開催の交流会は、商談のほか、起業家にとって貴重な人脈作りや事業のパートナー探しを支援するためにやっている。

「最近では、勤務先を定年退職してから起業する人が増えました。法律と会計の専門知識を生かして、今後もシニア起業家を応援していきます」

行政書士の資格を持つ片桐社長はきっぱり言う。次回の銀座アントレ交流会は8月26日に3周年記念企画として同じ会場で行われる。(川野智弘)



4月22日に行われた第30回銀座アントレ交流会
東京都中央区



新規開業 50代以上が26.6%

新規開業者の7.7%が60歳以上で、50代も含めると26.6%を占める。日本政策金融公庫が2010年8月に行ったアンケートで、シニア起業家の急増が浮き彫りとなった。

調査結果によると、新規開業者の年齢構成で60歳以上のシニア層の割合が00年度の2.7%から10年度には7.7%に高まった。ここ10年で割合が約3倍に拡大した計算だ。他の年齢層の割合は軒並み低下しているのを尻目に、60歳以上のシニア層は唯一の「伸び盛り世代」でもある。

10年度は、定年を含む自主退職で起業した人のうち、退職時

の役職が役員11.7%、管理職54.1%、合わせて65.8%にのぼる。在職時の管理経験や人脈を生かして、定年後は独立して「延長戦」に臨むシニアビジネス戦士が増えていることがうかがえる。

もっとも、役員クラスといえども、勤務先の企業側に関連企業・団体への天下りなど「第二の人生」を用意する余裕がなくなっている一面もありそうだ。

この調査は、同公庫が09年4月～9月に融資した企業のうち開業1年以内の企業6235社に対して実施、1738件（有効回答率27.9%）の回答を得た。

